

Library

図書館だより

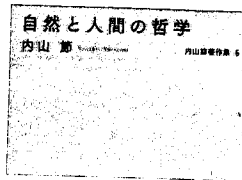
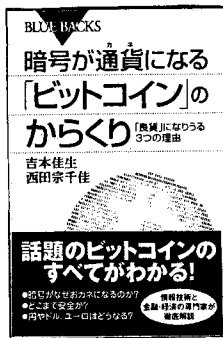


9 月号

甲南高等学校図書館

体育祭，文化祭が終わり，9月も下旬です。これから空気は冷涼になり，心身共に爽快になり，読書に最適な季節です。勉学に部活動に忙しいことと思いますが，秋こそ本を読み思索を深めましょう。教養を身につけるため，心を癒すため，楽しむため，知識を得るため，ワクワクするためなど，どんな目的で読書をしていても自由です。あなたの好きなように読んでみましょう！

新しい本が沢山入りました！好評貸出中。



人間学としての自然哲学構築の試み

<小説・読み物>

八月の六日間(北村薫著)/途中の一步・上・下(栗井脩介著)/白連れんれん(林真理子著)/将棋ボーイズ(小山田桐子著)/銀色の絆(栗井脩介著)/華氏451度(レイ・ブラッドベリ著)/心霊探偵八雲・赤い事件ファイル(神永学著)/心霊探偵八雲・いつわりの樹(神永学著)/心霊探偵八雲・祈りの柁(神永学著)/雪だるまの雪子ちゃん(江國香織著)/金米糖の降るところ(江國香織著)/スイートリトルライズ(江國香織著)/やわらかなレタス(江國香織著)/思い出のマーニー(ジョーン・G・ロビンソン)/終物語・中(西尾維新著)/とび(三谷幸喜著)/高校入試(湊かなえ著)/山女日記(湊かなえ著)/しゃぼん玉(乃南アサ著)/タラ・ダンカン・6・上~10・下(ホウ・マミエ著)/推定脅威(未須本有生著)

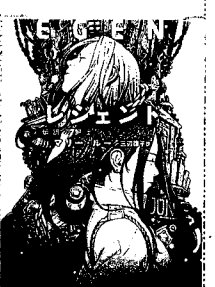
<調べものや学習に>

王鐸字典(伊藤松涛著)/書作のための木簡字典(二瀬西恵著)/偏差値29の私が東大に合格した超独学勉強法(杉山奈津子著)/内山節著作集6 自然と人間の哲学(内山節著, 農文協)/熱・統計力学(為近和彦著)/力学(為近和彦著)/電磁気学(前田和茂著)/物理がわかる実例計算101選(スワルツ著)/電磁気学がわかる(田原真人著)/だから日本はズレている(古市憲寿著, 新潮社)/家族農業が世界の未来を拓く(国連世界食料保障委員会専門家ハイレベル・パネル著)/孤独死のリアル(結城康博著)/メールはなぜ届くのか(草野真一著, 講談社)/暗号が通貨になるビットコインのからくり(吉本佳生他著, 講談社)/教師の資質(諸富祥彦著)

今読みたい！世界の名作

(世界の名作を文庫版で揃えました)

- 孤独な散歩者の夢想 (ルソー/新潮社)
- 博物誌 (ルナール)
- レジェンド (マリー・ルー/新潮社)
- 黒猫・アッシャー家の崩壊 (ポー/新潮社)
- サロメ・ウィンダミア卿夫人の扇/幸福な王子 (ワイルド)
- アポリネール詩集 (アポリネール)
- シェリー詩集 (シェリー)
- コクトー詩集 (コクトー)
- ヘッセ詩集 (ヘルマン・ヘッセ)
- ゲーテ詩集 (ゲーテ)
- リルケ詩集 (リルケ)
- ヴェルレーヌ詩集 (ヴェルレーヌ)
- ランボー詩集 (ランボー)



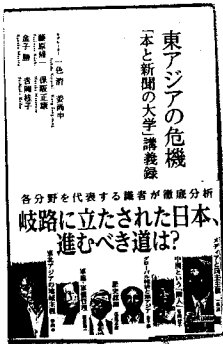
- 自負と偏見 (オースティン)
- 若きウェルテルの悩み/ファウスト (ゲーテ)
- 林檎の樹 (ゴールズワージー)
- 蠅の王 (ゴールドフィンク)
- サキ短編集 (サキ)
- 水いらず (サルトル)
- パルムの僧院・上・下 (スタンダール)
- 怒りの葡萄・上・下 (スタインベック)
- ハツカネズミと人間 (スタインベック)
- 狭き門 (ジイド)
- 椿姫 (デュマ・フィス)
- イワン・デニーソヴィチの一日 (リジエーヴン)
- 居酒屋 (ゾラ) 他

新着図書紹介

「本屋さんのダイアナ」(柚木麻子著/新潮社) 試練を越えて大人になる二人の少女を描く、現代の“赤毛のアン”。

「じゃって方言なおもしろか」(木部暢子著/岩波書店) 著者は方言研究者で、長年鹿児島大学に勤務した人。南九州方言を中心に、方言の特殊性、意外性、面白さについて語る。

「動的平衡 ダイアローグ」(福岡伸一著/木楽社) 生物学者の福岡ハカセが、ジャレド・ダイヤモンドや佐藤勝彦など7人の知識人と文明や芸術などを語る対談集。



「東アジアの危機」(一色清ほか著/集英社) 「本と新聞の大学」講義録。5人の識者が岐路に立たされた日本の、進むべき道を徹底分析し、聴衆の質問に答える。

「日本語に生まれて」(中村和恵著/岩波書店) 日本の本屋さんにあふれている良質な大量の日本語書籍を見ると、すごいなあと思う。一方でこれらの本は日本語を使わない海外の人たちには届かない。世界の本屋を巡りながら、そんなことを考えた。(本文より)

「『自分』の壁」(養老孟司著/新潮社) 頭の中にある「壁」を越えたときに、新たな思考の次元が見えてくる。眼からウロコの指摘が詰まった1冊。

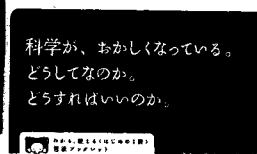
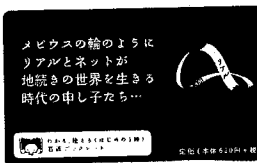
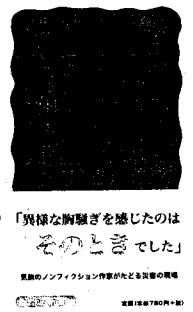
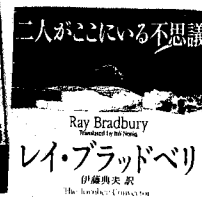
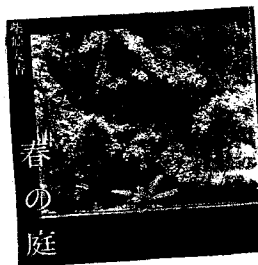
「科学のこれまで科学のこれから」(池内了著/岩波書店) 論文不正事件や原発事故など、私たちに快適な生活をもたらすはずの科学・技術が、なぜこれほど異様になってしまったのか。近代科学を問い直す。

「春の庭」(柴崎友香著/文藝春秋) 主人公が引っ越したアパートの、隣の女に誘われた小さな冒険を描く。静かな感動を呼ぶ芥川賞受賞作。

「豪雨災害」(稲泉連著/岩波書店) 近年豪雨災害が頻発している。本書は2011年9月の紀伊半島台風災害の実態と、その時人が見たものを伝える迫真のドキュメント。

つながりを煽られる子どもたち
ネット依存といじめの問題を考える
土井 隆義

科学のこれまで、科学のこれから
池内 了



「つながりを煽られる子どもたち」(土井隆義著/岩波書店) LINE 疲れ、スマホ依存、いじめ、仲間同士のしがらみなど、子どもたちが「つながり過剰症候群」に陥る背景と心理メカニズムとは?

「二人がここにいる不思議」(ブラッドベリ著/新潮社)。「華氏451度」「たんぽぽのお酒」などの作者の、静かな感動を呼ぶいい話を集めた短編集。

「幸福な王子」(ワイルド著/新潮社) 広場に建てられた王子の像が、宝石でできた自分の目や体中の金箔を、ツバメに頼んで貧しい人々に分け与える「幸福な王子」など9つの短編集。